



SYLLABUS



2026年度 シラバス

名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校

歯科衛生学科 3年生(20期生)

HUMANITEC DENTAL HYGIENIST+



∞∞ SYLLABUS 目次 ∞∞

1. 歯科衛生統計	1
2. 衛生・公衆衛生	2
3. 衛生行政・社会福祉	3
4. 歯科予防処置論Ⅴ	4
5. 歯科保健指導論Ⅴ	5
6. 歯科診療補助論Ⅳ	6
7. 臨床・臨地実習Ⅱ	8
8. 歯科総合基礎講座	10
9. ライフデザインⅢ	11

授業名	歯科衛生統計	学年	3年次 前期
担当講師名	新井歌織	単位(時間数)	1単位(20時間)

■ 授業概要

歯科医療情報の多くは統計処理した結果として提供されている。それらの情報を評価し、利用するには統計学の知識が必要である。本講義では、統計学の基礎を身につけると同時に、歯科で用いられる統計指標についての理解を得ることを目標とする。

■ 到達目標

統計学の基本と疫学指標を理解することで、学術情報を正確に読み取ることができる力を身につける。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	概論、政府統計	衛生統計の概要と政府統計の紹介
2	疫学	疫学総論、疫学の方法論
3	歯科疾患の指数①	う蝕の指数
4	歯科疾患の指数②	歯周疾患の指数
5	歯科疾患の指数③	口腔清掃状態の指数(OHI, OHI-S)
6	歯科疾患の指数③	口腔清掃状態の指数、その他の指数
7	保健情報の分析手順	基礎統計、データの特徴
8	保健統計の方法	相関など
9	保健情報の分析	解析と検定
10	総まとめ	講義のまとめ

【評価方法】

終講試験

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」医歯薬出版

【使用参考書】

配布プリント、わかりやすいビジュアル歯科保健医療 統計学 医歯薬出版

授業名	衛生学・公衆衛生学	学年	3年次 前後期
担当講師名	熊谷 法子	単位(時間数)	2単位(30時間)

■授業概要及び到達目標

公衆衛生学は共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進をはかる科学・技術である。21世紀の日本にとって、ますます高齢化が進み、疾病構造が変化してきていることなどから、保健医療サービスに対する住民のニーズが急速に高まっている。「健康日本 21(第三次)」が策定され、資質の高い保健医療関係者が求められる。歯科衛生士にとって、歯科衛生と共に公衆衛生学を学ぶことはきわめて重要である。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	総論	健康の概念、予防医学の概念
2	疫学	疫学の定義、概要および方法
3	人口	人口の動向、人口動態統計、生命表
4	健康と環境①	環境の概念、空気、水、放射線
5	健康と環境②	地域環境、公害、廃棄物
6	感染症	感染症の成り立ち、予防、動向
7	食品と健康	食品保健、栄養と健康
8	地域保健・公衆衛生	地域保健の概念、組織、地域保健活動
9	母子保健	母子保健の意義、妊産婦保健、小児保健
10	学校保健	学校保健の意義、概要、活動と組織
11	成人保健	成人保健の意義、生活習慣病、成人保健対策
12	産業保健	概念、職業性疾病、産業保健管理、産業組織活動
13	高齢者保健	高齢者保健の意義、行政組織と法律
14	精神保健・災害時の歯科保健	精神保健、医療、福祉 大規模災害時の保健医療対策
15	国際保健・まとめ	開発途上国の健康問題 わが国の保健医療問題、国際協力

【評価方法】

終講試験

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」医歯薬出版

【使用参考書】

配布プリント等

授業名	衛生行政・社会福祉	学年	3年次 前期
担当講師名	奥村 秀則	単位(時間数)	1 単位(20時間)

■ 授業概要

歯科衛生士は、歯科保健医療にかかわる職種であり、わが国においては、保健医療は法で定められた制度に基づいて行われている。そして、歯科衛生士という職そのものが、歯科衛生士法という法律によって作られている。そこで、歯科衛生法をはじめとする種々の保健医療に関する法律について学び、さらに歯科衛生士を取り巻くわが国の社会保障制度についての理解を深める。

■ 到達目標

わが国における社会保障制度の目的とその内容について理解する。また、歯科衛生士法および関連法規の内容を修得し、説明できる。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	わが国の医療制度	わが国の医療制度、医療法
2	歯科医師法	歯科医師法の沿革、目的、義務
3	歯科衛生士法1	歯科衛生士法の沿革、目的、歯科衛生士の定義と業務
4	歯科衛生士法2、歯科技工士法	免許、歯科衛生士名簿、国家試験、義務、歯科技工士法
5	歯科医療とかかわる医療関係者	保健師助産師看護師法、その他医療関係職種に係る法律
6	その他関連法規1	地域包括ケアシステム、地域保健に関する法律
7	その他関連法規2	歯科口腔保健法、薬事、その他衛生法規
8	社会保障1	社会保障、社会保険
9	社会保障2	社会福祉、障害者、高齢者の福祉制度と法律
10	医療の動向	医療施設、医療従事者、国民医療費

【評価方法】

筆記試験の評価点により総合的に判断する

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度」
医歯薬出版

【使用参考書】

授業名	歯科予防処置論Ⅴ	学年	3年次 前・後期
担当講師名	専任教員	単位(時間数)	1単位(30時間)

■授業概要

3年次では、臨床実習で得た知識・技術を統合し、歯科衛生士としての判断力・説明力・問題解決力を高めることが求められる。本授業では、歯科衛生診断の思考プロセスの確立、症例発表を通じた臨床推論・プレゼンテーション能力の向上、国家試験合格に必要な知識の体系化と弱点補強を目的とする。

■到達目標

1. 患者情報を統合し、科学的根拠に基づいた歯科衛生診断を行える
2. 診断に基づいたケア計画を論理的に説明できる
3. 臨床データを整理し、論理的でわかりやすい症例発表ができる
4. 質疑応答に対して根拠を示しながら説明できる
5. 国家試験の主要分野を体系的に理解し、安定して合格ラインを超える力を身につける
6. 自身の弱点を把握し、改善のための学習を継続できる

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	1・3年生の合同実習ガイダンス (講義)	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理 情報収集から症例発表までの概要説明
2・3	1・3年生の合同実習 (相互実習)	歯科衛生アセスメントとしての情報収集 (医療面談、歯周基本検査、う蝕活動性試験など) 1年生を患者として相互実習をおこなう。
4・5	歯科衛生診断演習① (講義) 担当:佐藤	症例報告の構成(背景・診査・診断・計画・実施・評価) 口腔内写真・資料の整理方法 エビデンスの検索と引用方法
6・7	歯科衛生診断演習② (講義)	スライド作成の基本(視覚的構成・図表の使い方) 発表技術(話し方・時間配分・質疑応答への対応)
8・9・10	症例発表	
11～15	国家試験対策	国家試験対策

【評価方法】

終講試験 100%

(身だしなみ、忘れ物、提出物(レポート含む)、出欠状況、授業態度 技能習得は別途評価)

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置・歯科保健指導論」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「歯周病学」医歯薬出版

授業名	歯科保健指導論Ⅴ	学年	3年次 前・後期
担当講師名	専任教員	単位(時間数)	1 単位(30 時間)

■ 授業概要

歯科保健指導は、歯科衛生士にとって重要な仕事の一つであり、幅広く基礎知識及び専門的な知識が必要とされる。

健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持し、増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を取得する。

■ 到達目標

国家試験合格のために、歯科保健指導論全般の知識の復習定着と応用を行う。

回数	テーマ	授業内容
1・2	栄養	栄養の働き・役割 消化・吸収 食事摂取基準
3・4	配慮を要する者への歯科衛生介入 高齢者・障害児・災害時	口腔の特徴 食生活指導
5	口腔機能管理に関わる指導	口腔機能発達不全症 口腔筋機能療法
6	地域歯科保健活動における健康教育	事業所 保健所・市町村保健センター
7・8	国家試験対策 1	高齢者評価指標 全身
9・10	国家試験対策 2	口腔機能 アセスメント・リハビリ・口腔機能低下症 離乳期・口腔機能獲得
11	国家試験対策 3	ブラッシング法(症例別ブラッシング法)、 指数
12	国家試験対策 4	ライフステージ
13	国家試験対策 5	地域保健、評価 発声、介護保険、法律、嚥下調整食ピラミッド・
14	国家試験対策 6	栄養
15	国家試験対策 7	行動変容・禁煙ステージ

【評価方法】

終講試験 100%

(身だしなみ、忘れ物、提出物(レポート含む)、出欠状況、授業態度 技能習得は別途評価)

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「保健生態学」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」医歯薬出版

歯科衛生学シリーズ「栄養と代謝」医歯薬出版

授業名	歯科診療補助論Ⅳ	学年	3年次 前・後期
担当講師名	専任教員	単位(時間数)	1単位(30時間)

■ 授業概要

高齢化社会をむかえ、歯科診療においても様々な疾病を持った患者への対応が求められる。通常の歯科診療の過程においても、患者の健康状態の把握や基礎疾患の知識を持ったうえで診療にあたることが大切である。そのためには、歯科のみの知識にとどまらず、全身と口腔とを関連付けて考えることの出来る基礎的な知識を持ち、今日のガイドライン、エビデンスに基づいた対応ができるよう学んでいく。

■ 到達目標

- 1) 直接法修復に必要な器具の準備と術式を説明できる。
- 2) 直接法修復の術式に則った補助ができる。
- 3) 全身状態の把握をするためのバイタルサインについて説明出来る。
- 3) 基礎疾患について説明し、歯科診療上問題となる点、配慮すべき事柄を述べる事ができる。
- 4) 糖尿病患者と糖尿病予防のための栄養指導と管理について説明できる。
- 5) 歯周病と糖尿病のかかわりについて説明できる。

■ 授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	プロビジョナルレストレーションの作成	既製冠を使用した暫間被覆冠の作成
2	プロビジョナルレストレーションの作成	既製冠を使用した暫間被覆冠の作成
3	主な全身疾患とその対応	歯周病と糖尿病について 臨床現場での歯科衛生士の役割と患者とのかかわり
4	主な全身疾患とその対応	歯周病と糖尿病について 臨床現場での歯科衛生士の役割と患者とのかかわり
5	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助	歯周病と糖尿病 歯科診療上問題となる点、配慮すべき事柄
6	歯科診療補助のまとめ	総まとめ
7	国家試験対策	総論
8	国家試験対策	主要歯科材料の種類と取り扱いと管理
9	国家試験対策	保存治療時の歯科診療補助
10	国家試験対策	補綴治療時の歯科診療補助

11	国家試験対策	口腔外科治療時の歯科診療補助
12	国家試験対策	矯正歯科治療時の歯科診療補助
13	国家試験対策	ライフステージの応じた歯科
14	国家試験対策	まとめ
15	国家試験対策	まとめ

【評価方法】

終講試験 100%

(身だしなみ、忘れ物、提出物(レポート含む)、出欠状況、授業態度 技能習得は別途評価)

【使用教科書】

歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」 医歯薬出版

「第4班イラストと写真でわかる歯科材料の基礎」 永末書店

歯科衛生学シリーズ「歯科機器」 医歯薬出版

【使用参考書】

歯科衛生士のための糖尿病予防指導マニュアル 医歯薬出版

授業名	臨床・臨地実習Ⅱ	学年	3年次 前・後期
担当講師名	実習施設指導員	単位(時間数)	12単位(540時間)

■ 授業概要

指定規則に定める教授要綱に基づき学校内で学んだ知識・技術を歯科臨床や地域保健等の実践の場面に適用し、理論と実践を結びつける。

■ 到達目標

講義と学内実習で学んだものを基に、理論と実践を結び付け理解できる能力を養うことを目的とする。

臨床実習Ⅲ・Ⅳ期

実習分野	実習内容
診療介助業務	◎ 医療人としての姿勢を学ぶ ◎ 歯科診療室の環境整備を行う ◎ 感染予防を実践する
歯科診療補助	◎ 症例に応じた器材を準備する ◎ 器具・器材の受け渡しを行う
歯科予防処置	◎ 指示された方法でう蝕予防処置を行う ◎ 指示された方法でスクレーリングを行う
歯科保健指導	◎ 指示された方法でブラッシング指導を行う
歯科訪問診療	◎ 在宅訪問歯科診療の流れを学ぶ 下記参照

臨床実習Ⅴ期

実習分野	実習内容
診療介助業務	◎ 治療の流れを把握したうえで歯科診療介助を行う
歯科診療補助	◎ 治療の流れを把握したうえで歯科診療補助を行う
歯科予防処置	◎ 患者管理を目的とした指導計画の立案と業務記録の作成を行う
歯科保健指導	◎ 患者管理を目的とした予防処置・保健指導を実践する
歯科訪問診療	◎ 他職種と連携を取りながら口腔ケアの自立支援・QOLの向上 口腔機能向上などを学ぶ 下記参照

* 診療介助業務、歯科診療補助においては2年次後期の実習内容含む

- * 歯科予防処置
 - ・手用スクレーラーによるスクレーリング
 - ・各種スクレーラーによるスクレーリング・ルートプレーニング
 - ・シャープニング・口腔清掃・歯面研磨・PMTC
 - ・フッ化物局所応用・小窩裂溝填塞・フッ化ジアンミン銀
- * 歯科保健指導
 - ・ブラッシング指導・栄養指導・患者継続管理指導
 - ・患者とのコミュニケーションのとり方・生活習慣の指導
 - ・アセスメントのとり方
- * 歯科訪問診療
 - ・在宅歯科診療の補助・訪問歯科保健指導・口腔ケア
 - ・口腔機能低下スクリーニング・口腔機能訓練
 - ・高齢者との会話法

備考：実習施設指導員は、歯科医師または歯科衛生士とし、免許を受けた後4年以上業務に従事した者である

臨地実習

幼稚園：集団におけるの歯磨き指導

社会福祉施設：他職種と連携をとり、摂食支援・介助や食後の口腔ケア

口腔機能訓練、福祉レク

【評価方法】

臨床実習評価 90%

臨地実習評価 10%

授業名	歯科総合基礎講座	学年	3年次 後期
担当講師名	専任教員他	単位(時間数)	6単位(90時間)

■授業概要

歯科衛生士国家試験に向け、3年間の総まとめの学習を行う。
専門基礎分野、専門分野の科目を振り返り、学習状況の確認を行うとともに基礎から応用に発展させることができるよう学習を進める。

■到達目標

歯科衛生士国家試験合格基準の学力を身に付け、3年制課程の学修の集大成とする。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
※日程、科目の詳細は後日配布します。		

【評価方法】

卒業試験

【使用教科書】

オリジナルプリントの配布

【使用参考書】

随時お伝えします。

授業名	ライフデザインⅢ	学年	3年次 前・後期
担当講師名	外部講師 専任教員	単位(時間数)	1単位(30時間) 以下の項目により構成される 歯科専門分野 選択(11 時間) 歯科専門分野 共通(4 時間)

■授業概要及び到達目標

歯科衛生士の活躍の場は多岐にわたり、また大いに期待が寄せられている。3年生では、歯科医療現場の専門分野からそれぞれ講師を招き、歯科衛生士の職能の特性、やりがい、業務の現状について学ぶ。

また、この分野ごとの学びを通して専門職としての姿勢、心構えや行動様式などを知り、自身の卒業後のキャリアデザインを描き就職活動に繋げる。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
	詳細は随時、連絡します。	

【評価方法】

課題作製、発表、レポート提出など

【使用教科書】

オリジナルプリント、資料などを配布

【使用参考書】

随時お伝えします。